

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1492番
自己評価作成日	H27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 施設の周りには、田んぼが見え季節を感じ生活を送る事が出来、のどかな時間が過ごせている。 利用者一人一人の思いに立ったケアを行い、毎日を楽しみ過ごせるよう支援している。 本人・ご家族・職員の笑顔が絶えない施設作りを行っている。 職員の退職が少なく、働きやすい施設作り心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、母体法人が運営する特別養護老人ホームと隣接する田園の中に立つ平屋建ての建物で、各ユニット毎に玄関が設置されている。ユニット間は自由に行き来することができ、緑の多い中庭は、利用者の心を和ませてくれている。管理者と職員は、理念に基づき利用者の日々の暮らしを支えるとともに、洗練された環境整備にも目を向け「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」の実践と意識向上に努めている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実践の積み重ねを感じさせる事業所である。また、地域住民との交流を深めるために、地域企業の参加を得てフリーマーケットの開催を予定している等、地域に密着した事業所としての積極的な取り組みは高く評価できる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあんじゅ

(ユニット名) やすらぎユニット

記入者(管理者)

氏名 野田 淳子

評価完了日 H27 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケア・ケアプランに活かしている。 ・ドラッカーの実施にも活かしている。 <p>(外部評価)</p> <p>職員の意見を取りまとめて「お互いを認め合い、笑顔が自然に出る馴染みの関係作り、その人らしい生活を送り安らげる環境作り、地域住民ご家族とのつながりを大切にす。」という事業所の理念を作成している。毎月の勉強会で理念について職員全員で話し合い、各ユニットに掲示して実践につなげている。法人ではマネジメントにドラッカーの手法を取り入れており、作成にあたっては家族アンケートを取って意見を反映している。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で情報を得て、地域の行事へ参加している。(7月久枝小学校生徒さんによる川祭り・10月地域の方による川祭り・夏祭りの呼び掛け・散歩時の挨拶等) <p>(外部評価)</p> <p>事業所の夏祭りには、チラシを戸別に配り近所の人に参加してもらっている。地域の秋祭りには、神輿や「川祭り」という行事を利用者と一緒に見に行くなど積極的に出かけている。日常的に散歩時にはあいさつを交わしたり、町内清掃にも参加している。また、近隣のろう学校生の訪問があり、生徒が「まつろうカフェ」を開いて、筆談しながら会話をしたり、卒業式に参列するなどして互いに交流している。今年度、地域企業の協力を得て、「ふれあいフリーマーケット」の開催を予定している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんの施設見学 ・9月にフリーマーケット開催 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に1回開催し、情報交換を行っている。出た意見 に対しては前向きに検討しサービス向上に活かしてい る。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族の他、近隣住民、民生委 員、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、 2か月に1回開催している。会議では、入居状況及び活 動報告を行うとともに、意見交換を行っている。家族の 参加者は固定化しているが、年4回開催する家族会で会 議の情報を提供し理解を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情等積極的 に伝え情報をえている。 ・疑問に思った事等、電話で聞き指導を受けている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議 に出席して事業所の実情を把握するとともに、感染症等 の情報を得ている。市との連携は日常的に行われてお り、制度の変更で解らないことや生活保護に関する問 合わせなど、指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・定期的な勉強会の実施 ・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取り組んでい る。	
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会が年2回開催されており、定期的に 身体拘束について勉強会が行われ、拘束をしないケアの 実践に努めている。各ユニットの玄関は常に施錠されて おらず、見守りに対応している。退院直後で転倒の危険 のある利用者に対しても、職員が話し合い工夫しながら ケアを行うなど、身体拘束をしない方針が徹底されてい る。ことばの拘束についても学び、互いに注意し合っ ている。また、ヒヤリハット報告を共有し、検討を重ね ながら予防に努め、拘束しないケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止について正しい理解をし、見過ごすことなく注意し防止につとめる。 ・開かれた施設を目指し、誰でも来ていただける施設作りを心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要としている方に説明している。 ・現在成年後見制度の手続きをしている方がおられ、協力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居前説明時十分な説明を行っている。 ・利用者・ご家族の不安や疑問に対し時間を取り説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話し話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会で検討したり、カンファレンスの実施。 ・家族会の実施。 ・運営推進会議にご家族のどなたでも参加できるよう呼び掛けている。 ・アンケートの実施。	
			(外部評価) 年4回の家族会は、事業所の行事開催前に家族だけが集まり、話しやすい雰囲気の中で要望や意見を出してもらっている。また、家族アンケート調査を実施して、出された意見を運営に反映させている。定期的に健康診断を受けさせたいという家族の要望に対し、協力病院と話し合っ実施するようにしたケースもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のユニット会の実施。 ・年2回の職員個人面談の実施。 ・必要に応じ適時職員と話す機会を設けている。 <p>(外部評価)</p> <p>毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。出された課題はテーマ毎に設定された各種委員会で話し合いを持ち、解決に結びつけている。管理者では解決できない課題は法人へつないでいる。また、年2回個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。家庭事情にも配慮しながら働き続けられるよう職員間で協力し合う職場環境で、経験豊かな職員が多い。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安寿会全体で検討し、働きやすい職場作りを目指している。 ・有給休暇取得をする。(今年よりリフレッシュ休暇を設けた。) 	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内勉強会の実施。(月1回) ・施設外研修参加についても、職員のケアの実際と力量に応じ参加を進める。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は、他施設の運営推進会議への参加を行う。 ・行事への参加の呼び掛けを行う。(夏祭り・フリーマーケット等) 	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常本人と密に関わり出来る限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係作りに努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居前説明時当施設の内容を説明し理解を得て、ご家族が困っている事求めている事を理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊出来る事を説明し職員の対応等見てもらい安心に繋げる。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることを、ケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人、ご家族の希望にそった外出の実施。（墓参り・自宅外出・本人の馴染みの場所等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人、ご家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会えるよう計画したり、訪問してもったりし支援に努める。 ・結婚式への参加の手伝い。 (外部評価) 利用者の知人や近所の友人が、面会に訪れている。孫の結婚式に参列したいという利用者の希望を、職員が付き添うことで実現でき喜ばれた事例がある。式場への送迎や馴染みの美容室には、家族が付き添いの上で送迎できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し利用者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方と過ごしたり、一緒に外出したり出来るよう計画している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在の状況をケアマネさんやご家族を通して情報を得たり、面会に行ったりしている。 ・H26年にOB会を実施し、近況報告をしたり、入居されていた時のビデオを見て話が盛り上がった。 ・行事への参加の呼び掛け。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向、希望を聞き実現出来る事はご家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 入居時に家族にケアプラン情報シートを記入してもらい、情報を把握するとともに、職員が日常生活の中で聞き取った情報を追加して職員間で情報を共有し、話し合いを持ちながら支援している。認知症の進行により、意思疎通困難な利用者の場合は、表情や行動から汲みとり支援している。「戦友に会いたい。」という利用者には家族と一緒に付き添い、「道後へ行きたい。」という利用者には職員が付き添って行き、喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残存機能を活かせる生活支援の実施。（洗濯物干し、たたみ・清掃・料理等）	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター方式の様式を使用しケアプランを立案している。(月2回・3ヶ月・6ヶ月毎変更時にモニタリングの実施) ・定期的に担当者会議の実施。(本人・ご家族・ケアマネ・職員等) <p>(外部評価)</p> <p>センター方式を活用してアセスメントを行い、利用者や家族の意向を聞いて介護計画に反映している。毎日、ケアプランチェック表を記入して、日頃のケアの実施状況を確認し、モニタリングを月2回実施している。毎月1回、ユニット会で全職員が介護計画を共有するとともに、3か月毎に見直しを行っている。また、家族の面会時に担当者が介護計画を説明し、同意を得るようにしている。県外在住の家族にも6か月に1回は面会に来てもらい直接説明をしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。 ・私の伝達シートの利用。 	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の宿泊・面会・ユニット移動・結婚式等本人、ご家族の状況に応じ対応している。 	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議へ民生委員・利用者・ご家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼すしアドバイスをもらう。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切にアドバイスや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。 ・いつでもご家族が、先生に相談出来る体制をとっている。 <p>(外部評価)</p> <p>月2回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。利用者や家族が希望する場合は、年1回胸部レントゲン検査を実施している。訪問歯科や皮膚科、精神科等の専門外来を受診する利用者は、家族の付き添いで通院しているが、家族が行けない場合は、職員が同行して受診できるように支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤看護師を配置し、常に連絡が取れ適切なアドバイスを受けている。 ・日常の健康管理の徹底。 	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、主治医と連携し情報交換や相談をし早期退院に協力している。(面会にも行き、主治医と連携をとっている。) 	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、ご家族に説明し理解を得ている。又職員全員で方針を共有している。 ・勉強会の実施。 <p>(外部評価)</p> <p>今までに利用者と家族の要望に応え、2名の看取りを行っている。入居時に看取りの意向を確認し、重度化した場合には、その都度説明を行って家族の同意を得ている。看取りを経験することで得た気づき等、職員間で振り返りや話し合いを持ち、今後の支援に役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育。 ・定期的な勉強会の実施。 ・看護師との連携体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し、全職員が把握している。 ・避難訓練は、年2回実施。(春は昼間想定・秋は夜間想定) ・近隣への協力依頼。 ・非常時備品の設置。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。避難訓練時には、近隣住民や民生委員にも声かけを行い、訓練に参加してもらっている。利用者の避難確認のために、居室入り口に表札を上下2個掛けてあり、避難を確認したら1個を取り除いて判るようにする工夫をしている。地震発生時に備えて、家具等倒れにくい対策を取っているほか、食料等の備蓄品を各ユニット毎に用意している。	職員全員が災害時の対応手順を理解しているが、具体的な行動に不安のある職員もいるため、職員全員が確実に利用者の避難誘導ができるよう、様々な災害を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日々のケア時・会話時等十分配慮している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛け・対応に心掛けている。 (外部評価) 日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者が不快にならないよう気をつけて支援している。気になる言葉使いや対応に気がついた時は、互いが注意し合う関係を大切にしている。利用者の呼び方は、馴染みの呼び名を家族に聞いて呼びかけ、「笑顔が出たら」家族の同意を得て使用するようになっている。排泄や入浴介助を行なう際は、恥辱心に配慮して支援するようになっている。長く入浴ができていなかったが、医師の発言で気づいて同性介助を行なったことで、入浴ができるようになった利用者がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明を行い、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの実施。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの美容院でのカットの実施。 ・利用者が身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人にあった食事の提供を行う。 ・出来る時には、下準備・片付けを一緒にしている。 ・アレルギーや嫌いな物の配慮。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら1週間分の献立を立て、食材は一括で配達された物を使って各ユニットで調理している。利用者の嚥下状態に応じて食事形態を工夫し、「うどんや焼きそばを食べたい。」という希望にも応えられるよう努めている。利用者は、食事の下準備や片付けなどの手伝いをしている。また、お花見をしながら食事をしたり、外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時、10時、3時には、必ずコップ一杯の水分を摂ってもらう。 ・摂取量をチェック表へきにゆうする。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施。 ・必要に応じて歯科受診。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・オムツ外しの努力、その人にあったオムツの使用。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけをしてトイレ誘導している。オムツを使用している利用者も含めて、1日1回はトイレに行って便座に座ってもらうようにし、気持ちよく排泄できるように努めている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合った排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整。(訪問診療時先生と相談する。) ・毎日排便のチェックを行う。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・季節に応じ回数も考慮する。 ・なるべく利用者の希望の時間や回数を聞き実施出来る工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や状況に応じて回数を調整している。夏季は、回数を増やしてシャワー浴を楽しむ利用者もいる。利用者の身体状態に応じて、一般家庭浴槽と座った状態でシャワー浴ができる「座シャワー」の設備がある。入浴の苦手な利用者も、職員がタイミングを工夫して声かけを行うことで入浴ができている。入居まで1年以上入浴していない利用者が、職員の声かけで入浴できるようになったケースもある。また、入浴剤を使用したり、季節に合わせてゆず湯・しょうぶ湯など、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施。(利用者の安眠を妨げないように行う。) ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服の内容はカルテに貼り、全員が把握出来るようにしている。 ・内服確認は職員が行う。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に、一人一人の力が発揮出来るよう役割を見つる。(洗濯物をハンガーにかける・たたむ・食材を切る・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加。(お花等) ・外食、ドライブは希望に応じ実施。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ外出の機会を設けている。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) お花見やさつき展等年間計画を立て、外出ができるように支援している。「本を買いたい。」「ズボンを選びたい。」等、利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、散歩やドライブ等を日常的に楽しんでいる。かつて巫女をしていた利用者の希望で、金毘羅詣りに家族と共に同行し、神主から神米が送られてきたことがある。	管理者は外出の大切さを理解しており、利用者一人ひとりの希望にそった外出の機会を多くしたいと考えているが、職員のみでは限界があるため、法人合同のボランティア委員会に協力を要請している。今後、外出支援ボランティアを増やし、外出の機会を増やしていただけるような取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時出来る、出来ないを見極め支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・本人の希望があれば対応している。自分から言えない方は、介助し対応する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5Sの徹底。（清掃・清潔・整理・整頓・しつけ）定期的にチェックを行っている。 ・室内、リビング等カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾りつけをし居心地よく生活出来るよう工夫している。 <p>(外部評価)</p> <p>各ユニット毎に玄関があり、それぞれが独立した建物に見えるが、内部は廊下でつながっていて自由に行き来ができる。広々としたリビングルームにはオープンキッチンと食卓、ソファがあり公衆電話も設置されている。畳のコーナーには掘炬燵があって、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、すべてのユニットから緑の多い中庭を見ることができ、季節感を感じることができる。床暖房とエアコンで快適な室温管理を行い、清潔で品の良い装飾が施されていて家庭的な雰囲気が随所に見られる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。 ・テーブル配置の工夫。 	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵や本人が作った作品等を飾ってもらえることで、居心地よく生活してもらえるよう工夫している。 <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ベット、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は、自宅から使い慣れたテーブルや椅子、冷蔵庫、テレビ等を持ち込み、ゴルフのトロフィー、自分で作った陶芸や刺繍、折り紙作品等を飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、居室ドア横の壁には利用者の作品展示コーナーが設けられ、作業療法の一環で作った作品を随時貼り換えて楽しんでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下には、手摺りの設置。 ・バリアフリーにし出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置。 	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1492番
自己評価作成日	H27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設の周りには、田んぼが見え季節を感じ生活を送る事が出来、のどかな時間が過ごせている。 ・利用者一人一人の思いに立ったケアを行い、毎日を楽しみ過ごせるよう支援している。 ・本人・ご家族・職員の笑顔が絶えない施設作りを行っている。 ・職員の退職が少なく、働きやすい施設作り心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人が運営する特別養護老人ホームと隣接する田園の中に立つ平屋建ての建物で、各ユニット毎に玄関が設置されている。ユニット間は自由に行き来することができ、緑の多い中庭は、利用者の心を和ませてくれている。管理者と職員は、理念に基づき利用者の日々の暮らしを支えるとともに、洗練された環境整備にも目を向け「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」の実践と意識向上に努めている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実践の積み重ねを感じさせる事業所である。また、地域住民との交流を深めるために、地域企業の参加を得てフリーマーケットの開催を予定している等、地域に密着した事業所としての積極的な取り組みは高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあんじゅ

(ユニット名) なごみユニット

記入者(管理者)
氏名 野田 淳子

評価完了日 H27 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケア・ケアプランに活かしている。 ・ドラッカーの実施にも活かしている。 <p>(外部評価)</p> <p>職員の意見を取りまとめて「お互いを認め合い、笑顔が自然に出る馴染みの関係作り、その人らしい生活を送り安らげる環境作り、地域住民ご家族とのつながりを大切にする。」という事業所の理念を作成している。毎月の勉強会で理念について職員全員で話し合い、各ユニットに掲示して実践につなげている。法人ではマネジメントにドラッカーの手法を取り入れており、作成にあたっては家族アンケートを取って意見を反映している。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で情報を得て、地域の行事へ参加している。(7月久枝小学校生徒さんによる川祭り・10月地域の方による川祭り・夏祭りの呼び掛け・散歩時の挨拶等) <p>(外部評価)</p> <p>事業所の夏祭りには、チラシを戸別に配り近所の人に参加してもらっている。地域の秋祭りには、神輿や「川祭り」という行事を利用者と一緒に見に行くなど積極的に出かけている。日常的に散歩時にはあいさつを交わしたり、町内清掃にも参加している。また、近隣のろう学校生の訪問があり、生徒が「まつろうカフェ」を開いて、筆談しながら会話をしたり、卒業式に参列するなどして互いに交流している。今年度、地域企業の協力を得て、「ふれあいフリーマーケット」の開催を予定している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんの施設見学 ・9月にフリーマーケット開催 	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に1回開催し、情報交換を行っている。出た意見に対しては前向きに検討しサービス向上に活かしている。	
			(外部評価)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情等積極的に伝え情報をえている。 ・疑問に思った事等、電話で聞き指導を受けている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、感染症等の情報を得ている。市との連携は日常的に行われており、制度の変更で解らないことや生活保護に関する問い合わせなど、指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・定期的な勉強会の実施 ・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会が年2回開催されており、定期的に身体拘束について勉強会が行われ、拘束をしないケアの実践に努めている。各ユニットの玄関は常に施錠されており、見守りに対応している。退院直後で転倒の危険のある利用者に対しても、職員が話し合い工夫しながらケアを行うなど、身体拘束をしない方針が徹底されている。ことばの拘束についても学び、互いに注意し合っている。また、ヒヤリハット報告を共有し、検討を重ねながら予防に努め、拘束しないケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止について正しい理解をし、見過ごすことなく注意し防止につとめる。 ・開かれた施設を目指し、誰でも来ていただける施設作りを心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要としている方に説明している。 ・現在成年後見制度の手続きをしている方がおられ、協力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居前説明時十分な説明を行っている。 ・利用者・ご家族の不安や疑問に対し時間を取り説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話し話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会で検討したり、カンファレンスの実施。 ・家族会の実施。 ・運営推進会議にご家族のどなたでも参加できるよう呼び掛けている。 ・アンケートの実施。	
			(外部評価) 年4回の家族会は、事業所の行事開催前に家族だけが集まり、話しやすい雰囲気の中で要望や意見を出してもらっている。また、家族アンケート調査を実施して、出された意見を運営に反映させている。定期的に健康診断を受けさせたいという家族の要望に対し、協力病院と話し合っ実施するようにしたケースもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のユニット会の実施。 ・年2回の職員個人面談の実施。 ・必要に応じ適時職員と話す機会を設けている。 <p>(外部評価)</p> <p>毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。出された課題はテーマ毎に設定された各種委員会で話し合いを持ち、解決に結びつけている。管理者では解決できない課題は法人へつないでいる。また、年2回個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。家庭事情にも配慮しながら働き続けられるよう職員間で協力し合う職場環境で、経験豊かな職員が多い。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安寿会全体で検討し、働きやすい職場作りを目指している。 ・有給休暇取得をする。(今年よりリフレッシュ休暇を設けた。) 	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内勉強会の実施。(月1回) ・施設外研修参加についても、職員のケアの実際と力量に応じ参加を進める。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は、他施設の運営推進会議への参加を行う。 ・行事への参加の呼び掛けを行う。(夏祭り・フリーマーケット等) 	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常本人と密に関わり出来る限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係作りに努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居前説明時当施設の内容を説明し理解を得て、ご家族が困っている事求めている事を理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊出来る事を説明し職員の対応等見てもらい安心に繋げる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることを、ケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人、ご家族の希望にそった外出の実施。（墓参り・自宅外出・本人の馴染みの場所等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人、ご家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会えるよう計画したり、訪問してもったりし支援に努める。 ・結婚式への参加の手伝い。 (外部評価) 利用者の知人や近所の友人が、面会に訪れている。孫の結婚式に参列したいという利用者の希望を、職員が付き添うことで実現でき喜ばれた事例がある。式場への送迎や馴染みの美容室には、家族が付き添いの上で送迎できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し利用者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方と過ごしたり、一緒に外出したり出来るよう計画している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在の状況をケアマネさんやご家族を通して情報を得たり、面会に行ったりしている。 ・H26年にOB会を実施し、近況報告をしたり、入居されていた時のビデオを見て話が盛り上がった。 ・行事への参加の呼び掛け。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向、希望を聞き実現出来る事はご家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 入居時に家族にケアプラン情報シートを記入してもらい、情報を把握するとともに、職員が日常生活の中で聞き取った情報を追加して職員間で情報を共有し、話し合いを持ちながら支援している。認知症の進行により、意思疎通困難な利用者の場合は、表情や行動から汲みとり支援している。「戦友に会いたい。」という利用者には家族と一緒に付き添い、「道後へ行きたい。」という利用者には職員が付き添って行き、喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残存機能を活かせる生活支援の実施。（洗濯物干し、たたみ・清掃・料理等）	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター方式の様式を使用しケアプランを立案している。(月2回・3ヶ月・6ヶ月毎変更時にモニタリングの実施) ・定期的に担当者会議の実施。(本人・ご家族・ケアマネ・職員等) <p>(外部評価)</p> <p>センター方式を活用してアセスメントを行い、利用者や家族の意向を聞いて介護計画に反映している。毎日、ケアプランチェック表を記入して、日頃のケアの実施状況を確認し、モニタリングを月2回実施している。毎月1回、ユニット会で全職員が介護計画を共有するとともに、3か月毎に見直しを行っている。また、家族の面会時に担当者が介護計画を説明し、同意を得るようにしている。県外在住の家族にも6か月に1回は面会に来てもらい直接説明をしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。 ・私の伝達シートの利用。 	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の宿泊・面会・ユニット移動・結婚式等本人、ご家族の状況に応じ対応している。 	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議へ民生委員・利用者・ご家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼すしアドバイスをもらう。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切にアドバイスや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。 ・いつでもご家族が、先生に相談出来る体制をとっている。 <p>(外部評価)</p> <p>月2回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。利用者や家族が希望する場合は、年1回胸部レントゲン検査を実施している。訪問歯科や皮膚科、精神科等の専門外来を受診する利用者は、家族の付き添いで通院しているが、家族が行けない場合は、職員が同行して受診できるように支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤看護師を配置し、常に連絡が取れ適切なアドバイスを受けている。 ・日常の健康管理の徹底。 	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、主治医と連携し情報交換や相談をし早期退院に協力している。(面会にも行き、主治医と連携をとっている。) 	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、ご家族に説明し理解を得ている。又職員全員で方針を共有している。 ・勉強会の実施。 <p>(外部評価)</p> <p>今までに利用者と家族の要望に応え、2名の看取りを行っている。入居時に看取りの意向を確認し、重度化した場合には、その都度説明を行って家族の同意を得ている。看取りを経験することで得た気づき等、職員間で振り返りや話し合いを持ち、今後の支援に役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育。 ・定期的な勉強会の実施。 ・看護師との連携体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し、全職員が把握している。 ・避難訓練は、年2回実施。(春は昼間想定・秋は夜間想定) ・近隣への協力依頼。 ・非常時備品の設置。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。避難訓練時には、近隣住民や民生委員にも声かけを行い、訓練に参加してもらっている。利用者の避難確認のために、居室入り口に表札を上下2個掛けてあり、避難を確認したら1個を取り除いて判るようにする工夫をしている。地震発生時に備えて、家具等倒れにくい対策を取っているほか、食料等の備蓄品を各ユニット毎に用意している。	職員全員が災害時の対応手順を理解しているが、具体的な行動に不安のある職員もいるため、職員全員が確実に利用者の避難誘導ができるよう、様々な災害を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日々のケア時・会話時等十分配慮している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛け・対応に心掛けている。 (外部評価) 日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者が不快にならないよう気をつけて支援している。気になる言葉使いや対応に気がついた時は、互いが注意し合う関係を大切にしている。利用者の呼び方は、馴染みの呼び名を家族に聞いて呼びかけ、「笑顔が出たら」家族の同意を得て使用するようになっている。排泄や入浴介助を行なう際は、恥辱心に配慮して支援するようになっている。長く入浴ができていなかったが、医師の発言で気づいて同性介助を行なったことで、入浴ができるようになった利用者がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明を行い、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの実施。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの美容院でのカットの実施。 ・利用者が身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人にあった食事の提供を行う。 ・出来る時には、下準備・片付けを一緒にしている。 ・アレルギーや嫌いな物の配慮。	
			(外部評価) 利用者の希望を聞きながら1週間分の献立を立て、食材は一括で配達された物を使って各ユニットで調理している。利用者の嚥下状態に応じて食事形態を工夫し、「うどんや焼きそばを食べたい。」という希望にも応えられるよう努めている。利用者は、食事の下準備や片付けなどの手伝いをしている。また、お花見をしながら食事をしたり、外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時、10時、3時には、必ずコップ一杯の水分を摂ってもらう。 ・摂取量をチェック表へきにゆうする。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施。 ・必要に応じて歯科受診。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・オムツ外しの努力、その人にあったオムツの使用。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけをしてトイレ誘導している。オムツを使用している利用者も含めて、1日1回はトイレに行って便座に座ってもらうようにし、気持ちよく排泄できるように努めている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合った排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整。(訪問診療時先生と相談する。) ・毎日排便のチェックを行う。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・季節に応じ回数も考慮する。 ・なるべく利用者の希望の時間や回数を聞き実施出来る工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や状況に応じて回数を調整している。夏季は、回数を増やしてシャワー浴を楽しむ利用者もいる。利用者の身体状態に応じて、一般家庭浴槽と座った状態でシャワー浴ができる「座シャワー」の設備がある。入浴の苦手な利用者も、職員がタイミングを工夫して声かけを行うことで入浴ができている。入居まで1年以上入浴していない利用者が、職員の声かけで入浴できるようになったケースもある。また、入浴剤を使用したり、季節に合わせてゆず湯・しょうぶ湯など、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施。(利用者の安眠を妨げないように行う。) ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服の内容はカルテに貼り、全員が把握出来るようにしている。 ・内服確認は職員が行う。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に、一人一人の力が発揮出来るよう役割を見つる。(洗濯物をハンガーにかける・たたむ・食材を切る・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加。(お花等) ・外食、ドライブは希望に応じ実施。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ外出の機会を設けている。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) お花見やさつき展等年間計画を立て、外出ができるように支援している。「本を買いたい。」「ズボンを選びたい。」等、利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、散歩やドライブ等を日常的に楽しんでいる。かつて巫女をしていた利用者の希望で、金毘羅詣りに家族と共に同行し、神主から神米が送られてきたことがある。	管理者は外出の大切さを理解しており、利用者一人ひとりの希望にそった外出の機会を多くしたいと考えているが、職員のみでは限界があるため、法人合同のボランティア委員会に協力を要請している。今後、外出支援ボランティアを増やし、外出の機会を増やしていただけるような取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時出来る、出来ないを見極め支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・本人の希望があれば対応している。自分から言えない方は、介助し対応する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・5Sの徹底。（清掃・清潔・整理・整頓・しつけ）定期的にチェックを行っている。 ・室内、リビング等カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾りつけをし居心地よく生活出来るよう工夫している。	
			(外部評価) 各ユニット毎に玄関があり、それぞれが独立した建物に見えるが、内部は廊下でつながっていて自由に行き来ができる。広々としたリビングルームにはオープンキッチンと食卓、ソファがあり公衆電話も設置されている。畳のコーナーには掘炬燵があって、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、すべてのユニットから緑の多い中庭を見ることができ、季節感を感じることができる。床暖房とエアコンで快適な室温管理を行い、清潔で品の良い装飾が施されていて家庭的な雰囲気が随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。 ・テーブル配置の工夫。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵や本人が作った作品等を飾ってもらえることで、居心地よく生活してもらえるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室には、ベット、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は、自宅から使い慣れたテーブルや椅子、冷蔵庫、テレビ等を持ち込み、ゴルフのトロフィー、自分で作った陶芸や刺繍、折り紙作品等を飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、居室ドア横の壁には利用者の作品展示コーナーが設けられ、作業療法の一環で作った作品を随時貼り換えて楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には、手摺りの設置。 ・バリアフリーにし出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102807
法人名	社会福祉法人 安寿会
事業所名	グループホームあんじゅ
所在地	松山市安城寺町1492番
自己評価作成日	H27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設の周りには、田んぼが見え季節を感じ生活を送る事が出来、のどかな時間が過ごせている。 ・利用者一人一人の思いに立ったケアを行い、毎日を楽しみ過ごせるよう支援している。 ・本人・ご家族・職員の笑顔が絶えない施設作りを行っている。 ・職員の退職が少なく、働きやすい施設作り心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人が運営する特別養護老人ホームと隣接する田園の中に立つ平屋建ての建物で、各ユニット毎に玄関が設置されている。ユニット間は自由に行き来することができ、緑の多い中庭は、利用者の心を和ませてくれている。管理者と職員は、理念に基づき利用者の日々の暮らしを支えるとともに、洗練された環境整備にも目を向け「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」の実践と意識向上に努めている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実践の積み重ねを感じさせる事業所である。また、地域住民との交流を深めるために、地域企業の参加を得てフリーマーケットの開催を予定している等、地域に密着した事業所としての積極的な取り組みは高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあんじゅ

(ユニット名) いこいユニット

記入者(管理者)
氏名 野田 淳子

評価完了日 H27 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の理念を作成し、職員全員で共有し日々のケア・ケアプランに活かしている。 ・ドラッカーの実施にも活かしている。 <p>(外部評価)</p> <p>職員の意見を取りまとめて「お互いを認め合い、笑顔が自然に出る馴染みの関係作り、その人らしい生活を送り安らげる環境作り、地域住民ご家族とのつながりを大切にする。」という事業所の理念を作成している。毎月の勉強会で理念について職員全員で話し合い、各ユニットに掲示して実践につなげている。法人ではマネジメントにドラッカーの手法を取り入れており、作成にあたっては家族アンケートを取って意見を反映している。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有するようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で情報を得て、地域の行事へ参加している。(7月久枝小学校生徒さんによる川祭り・10月地域の方による川祭り・夏祭りの呼び掛け・散歩時の挨拶等) <p>(外部評価)</p> <p>事業所の夏祭りには、チラシを戸別に配り近所の人に参加してもらっている。地域の秋祭りには、神輿や「川祭り」という行事を利用者と一緒に見に行くなど積極的に出かけている。日常的に散歩時にはあいさつを交わしたり、町内清掃にも参加している。また、近隣のろう学校生の訪問があり、生徒が「まつろうカフェ」を開いて、筆談しながら会話をしたり、卒業式に参列するなどして互いに交流している。今年度、地域企業の協力を得て、「ふれあいフリーマーケット」の開催を予定している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんの施設見学 ・9月にフリーマーケット開催 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に1回開催し、情報交換を行っている。出た意見に対しては前向きに検討しサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族の他、近隣住民、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、入居状況及び活動報告を行うとともに、意見交換を行っている。家族の参加者は固定化しているが、年4回開催する家族会で会議の情報を提供し理解を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情等積極的に伝え情報をえている。 ・疑問に思った事等、電話で聞き指導を受けている。	
			(外部評価) 市職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、感染症等の情報を得ている。市との連携は日常的に行われており、制度の変更で解らないことや生活保護に関する問い合わせなど、指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・定期的な勉強会の実施 ・マニュアルを作成し、職員全員で理解し取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会が年2回開催されており、定期的に身体拘束について勉強会が行われ、拘束をしないケアの実践に努めている。各ユニットの玄関は常に施錠されており、見守りで対応している。退院直後で転倒の危険のある利用者に対しても、職員が話し合い工夫しながらケアを行うなど、身体拘束をしない方針が徹底されている。ことばの拘束についても学び、互いに注意し合っている。また、ヒヤリハット報告を共有し、検討を重ねながら予防に努め、拘束しないケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止について正しい理解をし、見過ごすことなく注意し防止につとめる。 ・開かれた施設を目指し、誰でも来ていただける施設作りを心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し学ぶ機会を持ち、必要としている方に説明している。 ・現在成年後見制度の手続きをしている方がおられ、協力している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居前説明時十分な説明を行っている。 ・利用者・ご家族の不安や疑問に対し時間を取り説明し理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切にし話を十分聞くようにしている。 ・ユニット会で検討したり、カンファレンスの実施。 ・家族会の実施。 ・運営推進会議にご家族のどなたでも参加できるよう呼び掛けている。 ・アンケートの実施。	
			(外部評価) 年4回の家族会は、事業所の行事開催前に家族だけが集まり、話しやすい雰囲気の中で要望や意見を出してもらっている。また、家族アンケート調査を実施して、出された意見を運営に反映させている。定期的に健康診断を受けさせたいという家族の要望に対し、協力病院と話し合っって実施するようにしたケースもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のユニット会の実施。 ・年2回の職員個人面談の実施。 ・必要に応じ適時職員と話す機会を設けている。 <p>(外部評価)</p> <p>毎月1回ユニット会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。出された課題はテーマ毎に設定された各種委員会で話し合いを持ち、解決に結びつけている。管理者では解決できない課題は法人へつないでいる。また、年2回個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。家庭事情にも配慮しながら働き続けられるよう職員間で協力し合う職場環境で、経験豊かな職員が多い。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安寿会全体で検討し、働きやすい職場作りを目指している。 ・有給休暇取得をする。(今年よりリフレッシュ休暇を設けた。) 	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内勉強会の実施。(月1回) ・施設外研修参加についても、職員のケアの実際と力量に応じ参加を進める。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は、他施設の運営推進会議への参加を行う。 ・行事への参加の呼び掛けを行う。(夏祭り・フリーマーケット等) 	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常本人と密に関わり出来る限り詳細な情報と状況を把握し信頼関係作りに努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居前説明時当施設の内容を説明し理解を得て、ご家族が困っている事求めている事を理解するようにしている。 ・食事を一緒にしたり、宿泊出来る事を説明し職員の対応等見てもらい安心に繋げる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人・家族が望んでいることを、ケアプランに取り入れ実施する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方・料理（材料の切り方・味付け）を会話の中から学び一緒に実施する。 ・本人、ご家族の希望にそった外出の実施。（墓参り・自宅外出・本人の馴染みの場所等）	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・ケアプランの活用（定期的な病院受診・理美容院への外出・墓参り・自宅への外出）	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・本人、ご家族の意見を聞き行きたい場所に行ったり、会いたい人に会えるよう計画したり、訪問してもらったりし支援に努める。 ・結婚式への参加の手伝い。 (外部評価) 利用者の知人や近所の友人が、面会に訪れている。孫の結婚式に参列したいという利用者の希望を、職員が付き添うことで実現でき喜ばれた事例がある。式場への送迎や馴染みの美容室には、家族が付き添いの上で送迎できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し利用者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している。 ・仲の良い方と過ごしたり、一緒に外出したり出来るよう計画している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・現在の状況をケアマネさんやご家族を通して情報を得たり、面会に行ったりしている。 ・H26年にOB会を実施し、近況報告をしたり、入居されていた時のビデオを見て話が盛り上がった。 ・行事への参加の呼び掛け。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人一人の意向、希望を聞き実現出来る事はご家族と相談し実行している。 ・一人一人の思いに立ったケアを目指している。 (外部評価) 入居時に家族にケアプラン情報シートを記入してもらい、情報を把握するとともに、職員が日常生活の中で聞き取った情報を追加して職員間で情報を共有し、話し合いを持ちながら支援している。認知症の進行により、意思疎通困難な利用者の方は、表情や行動から汲みとり支援している。「戦友に会いたい。」という利用者には家族と一緒に付き添い、「道後へ行きたい。」という利用者には職員が付き添って行き、喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを活用し、情報収集に努め職員間で共有しケアプランに取り入れ実施している。 ・入居者情報シートを作成し職員全員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日々の状態を把握し、カルテへ記入（状態を共有） ・残存機能を活かせる生活支援の実施。（洗濯物干し、たたみ・清掃・料理等）	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター方式の様式を使用しケアプランを立案している。(月2回・3ヶ月・6ヶ月毎変更時にモニタリングの実施) ・定期的に担当者会議の実施。(本人・ご家族・ケアマネ・職員等) <p>(外部評価)</p> <p>センター方式を活用してアセスメントを行い、利用者や家族の意向を聞いて介護計画に反映している。毎日、ケアプランチェック表を記入して、日頃のケアの実施状況を確認し、モニタリングを月2回実施している。毎月1回、ユニット会で全職員が介護計画を共有するとともに、3か月毎に見直しを行っている。また、家族の面会時に担当者が介護計画を説明し、同意を得るようにしている。県外在住の家族にも6か月に1回は面会に来てもらい直接説明をしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録は毎日個別記録に記入し職員間で共有している。 ・モニタリング時に活かしている。 ・私の伝達シートの利用。 	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の宿泊・面会・ユニット移動・結婚式等本人、ご家族の状況に応じ対応している。 	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議へ民生委員・利用者・ご家族・近隣者・包括職員・市職員・職員で実施している。内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼すしアドバイスをもらう。 	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切にアドバイスや医療を受けている。 ・福角病院より月2回の訪問診療あり。 ・いつでもご家族が、先生に相談出来る体制をとっている。 <p>(外部評価)</p> <p>月2回協力病院の医師の往診があるため、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。利用者や家族が希望する場合は、年1回胸部レントゲン検査を実施している。訪問歯科や皮膚科、精神科等の専門外来を受診する利用者は、家族の付き添いで通院しているが、家族が行けない場合は、職員が同行して受診できるように支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤看護師を配置し、常に連絡が取れ適切なアドバイスを受けている。 ・日常の健康管理の徹底。 	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、主治医と連携し情報交換や相談をし早期退院に協力している。(面会にも行き、主治医と連携をとっている。) 	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、ご家族に説明し理解を得ている。又職員全員で方針を共有している。 ・勉強会の実施。 <p>(外部評価)</p> <p>今までに利用者と家族の要望に応え、2名の看取りを行っている。入居時に看取りの意向を確認し、重度化した場合には、その都度説明を行って家族の同意を得ている。看取りを経験することで得た気づき等、職員間で振り返りや話し合いを持ち、今後の支援に役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育。 ・定期的な勉強会の実施。 ・看護師との連携体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・マニュアルを作成し、全職員が把握している。 ・避難訓練は、年2回実施。(春は昼間想定・秋は夜間想定) ・近隣への協力依頼。 ・非常時備品の設置。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。避難訓練時には、近隣住民や民生委員にも声かけを行い、訓練に参加してもらっている。利用者の避難確認のために、居室入り口に表札を上下2個掛けてあり、避難を確認したら1個を取り除いて判るようにする工夫をしている。地震発生時に備えて、家具等倒れにくい対策を取っているほか、食料等の備蓄品を各ユニット毎に用意している。	職員全員が災害時の対応手順を理解しているが、具体的な行動に不安のある職員もいるため、職員全員が確実に利用者の避難誘導ができるよう、様々な災害を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・日々のケア時・会話時等十分配慮している。 ・一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛け・対応に心掛けている。 (外部評価) 日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者が不快にならないよう気をつけて支援している。気になる言葉使いや対応に気がついた時は、互いが注意し合う関係を大切にしている。利用者の呼び方は、馴染みの呼び名を家族に聞いて呼びかけ、「笑顔が出たら」家族の同意を得て使用するようにしている。排泄や入浴介助を行なう際は、恥辱心に配慮して支援するようにしている。長く入浴ができていなかったが、医師の発言で気づいて同性介助を行なったことで、入浴ができるようになった利用者がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたり解るよう説明を行い、納得し暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに耳を傾け、希望に添ったケアを実施している。 ・ケアプランの実施。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・馴染みの美容院でのカットの実施。 ・利用者が身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人にあった食事の提供を行う。 ・出来る時には、下準備・片付けを一緒にしている。 ・アレルギーや嫌いな物の配慮。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら1週間分の献立を立て、食材は一括で配達された物を使って各ユニットで調理している。利用者の嚥下状態に応じて食事形態を工夫し、「うどんや焼きそばを食べたい。」という希望にも応えられるよう努めている。利用者は、食事の下準備や片付けなどの手伝いをしている。また、お花見をしながら食事をしたり、外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時、10時、3時には、必ずコップ一杯の水分を摂ってもらう。 ・摂取量をチェック表へきにゆうする。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施。 ・必要に応じて歯科受診。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズに出来るよう支援している。 ・オムツ外しの努力、その人にあったオムツの使用。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、排泄チェックをしながら声かけをしてトイレ誘導している。オムツを使用している利用者も含めて、1日1回はトイレに行って便座に座ってもらうようにし、気持ちよく排泄できるように努めている。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合った排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・運動・食事・水分補給に努め、排便がスムーズに出来るよう支援している。 ・内服薬の調整。(訪問診療時先生と相談する。) ・毎日排便のチェックを行う。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・季節に応じ回数も考慮する。 ・なるべく利用者の希望の時間や回数を聞き実施出来る工夫をしている。 ・季節に応じた入浴の工夫。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や状況に応じて回数を調整している。夏季は、回数を増やしてシャワー浴を楽しむ利用者もいる。利用者の身体状態に応じて、一般家庭浴槽と座った状態でシャワー浴ができる「座シャワー」の設備がある。入浴の苦手な利用者も、職員がタイミングを工夫して声かけを行うことで入浴ができている。入居まで1年以上入浴していない利用者が、職員の声かけで入浴できるようになったケースもある。また、入浴剤を使用したり、季節に合わせてゆず湯・しょうぶ湯など、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあった時間に就寝し、起きてもらうよう配慮している。 ・1時間毎の巡回実施。(利用者の安眠を妨げないように行う。) ・自由に各居室に帰り休憩してもらう。介助の必要な方は、職員が配慮する。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・内服の内容はカルテに貼り、全員が把握出来るようにしている。 ・内服確認は職員が行う。 ・必要に応じ医師に指示を受ける。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・情報を元に、一人一人の力が発揮出来るよう役割を見つる。(洗濯物をハンガーにかける・たたむ・食材を切る・清掃等) ・本人が参加したいと思うレク活動への参加。(お花等) ・外食、ドライブは希望に応じ実施。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・本人の希望に応じ外出の機会を設けている。 ・個々の散歩も自由に実施している。 (外部評価) お花見やさつき展等年間計画を立て、外出ができるように支援している。「本を買いたい。」「ズボンを選びたい。」等、利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、散歩やドライブ等を日常的に楽しんでいる。かつて巫女をしていた利用者の希望で、金毘羅詣りに家族と共に同行し、神主から神米が送られてきたことがある。	管理者は外出の大切さを理解しており、利用者一人ひとりの希望にそった外出の機会を多くしたいと考えているが、職員のみでは限界があるため、法人合同のボランティア委員会に協力を要請している。今後、外出支援ボランティアを増やし、外出の機会を増やしていただけるような取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時出来る、出来ないを見極め支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・本人の希望があれば対応している。自分から言えない方は、介助し対応する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5Sの徹底。（清掃・清潔・整理・整頓・しつけ）定期的にチェックを行っている。 ・室内、リビング等カーテンやレースカーテンは光や音に配慮している。 ・リビングには、季節に応じた飾りつけをし居心地よく生活出来るよう工夫している。 <p>(外部評価)</p> <p>各ユニット毎に玄関があり、それぞれが独立した建物に見えるが、内部は廊下でつながっていて自由に行き来ができる。広々としたリビングルームにはオープンキッチンと食卓、ソファがあり公衆電話も設置されている。畳のコーナーには堀炬燵があって、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、すべてのユニットから緑の多い中庭を見ることができ、季節感を感じることができる。床暖房とエアコンで快適な室温管理を行い、清潔で品の良い装飾が施されていて家庭的な雰囲気が随所に見られる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の時間を大切にし、仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている。 ・テーブル配置の工夫。 	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室には、馴染みの家具を持参してもらい馴染みの写真や絵や本人が作った作品等を飾ってもらえることで、居心地よく生活してもらえるよう工夫している。 <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ベット、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は、自宅から使い慣れたテーブルや椅子、冷蔵庫、テレビ等を持ち込み、ゴルフのトロフィー、自分で作った陶芸や刺繍、折り紙作品等を飾って、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、居室ドア横の壁には利用者の作品展示コーナーが設けられ、作業療法の一環で作った作品を随時貼り換えて楽しんでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下には、手摺りの設置。 ・バリアフリーにし出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり。 ・見やすいカレンダーの設置。 	